

《カトリック大和高田教会 お知らせ》 2024年11月10日

典 礼 暦	日 時 など
年間第32主日	11月10日 (日) ベトナム語ミサ 15:00
	11月14日 (木) ミサ 10:30
	11月16日 (土) ミサ 8:00
年間第33主日	11月17日 (日) ミサ 15:00
	11月21日 (木) ミサ 10:30
	11月23日 (土) ミサ なし

【京都司教区】

●第二バチカン公会議を学ぶ～シノドスの歩みのために～

【ZOOM 講座】 & 【対面分かち合い】 2024年7月～2025年4月

【ZOOM 講座】 次回は、11月15日(金)。詳細は、ホール掲示板。

【奈良ブロック】

●ウォーカーソン：11月23日(土、勤労感謝の日)

詳細はポスター、チラシをご覧ください。

●「差別をなくす奈良県宗教者連帯会議 (奈宗連)」

11月26日(火)：40周年記念事業～差別をなくす平和の巡拝～
集合 12:30(JR 奈良駅前広場)～解散 16:00 頃(県庁前)

詳細は、掲示板 (チラシ) をご覧ください。

●【登美ヶ丘教会からのお知らせ】

《12月1日に30回忌の命日を迎えるトニ・グリーン神父様を偲んで》

▶ 11月30日(土) 13時～、映画「愛の鉄道」上映

15時～、追悼ミサ(司式：一場神父様[マリスト会])

●フィリピン宣教会 60周年記念・「2025 聖年・希望の巡礼の旅」

2025年1月22日(水)～1月27日(月)6日間

チラシをご覧くださいの上、直接旅行社へお申し込みください。

●2024年クリスマス・チャペルコンサート合唱団の練習について

練習日：11月10、24日(日)、14時～ / 場所：大和八木教会

◎「聖書を学ぶ会」からのお知らせです。

今年の講話(全四回)がYoutubeで視聴できるようになりました。
受講された方で、再度、受講(視聴)されたい方は、「学ぶ会」の
担当者へ申し込んで下さい。詳細は、掲示板をご覧ください。

【大和高田教会】

◎地区会を11月17日(土)9:00から行います。

みなさま、ご出席いただきますようお願いいたします。

◎典礼部会を12月1日(日)ミサ後に小聖堂で行います。

▶「待降節・降誕ミサ」「神の母聖マリアミサ」の準備です。

◎クリスマスの飾り付けを11月24日(日)ミサ後に行います。

多くの方のご協力をお願いいたします。

●11月は死者の月です。お亡くなりになった方のお名前を書いて、

聖堂後方の箱にお入れください。

亡くなられた方を思い起こし、神の御許で安らかにと祈ります。

●「2024・待降節黙想会」：指導司祭はホン・ユンハク神父様です。

待降節を迎える心の準備のために、ご参加ください

日時：12月7日(土)10時から 講話とミサ、分かち合い

※お昼をはさみますので、軽食の準備(有料、事前申込み必要)

※詳細は、掲示板・ポスターをご覧ください。

●【国際協力委員会から】船員司牧のための『帽子とマフラー』を

12月1日(日)、神戸マリナーズセンターへ発送いたします。

11月24日(日)までに国際協力委員へお渡しください。

●「京都教区時報」と「心のともしび」の11月号を個人ボックスへ

配布しました。(ボックスのない方は受付でお受け取り下さい)

●「聖書の分かち合い」(Sr.ローマ)：11月14日(木)ミサ後

◆ 教会掃除当番

11月10日(日)ミサ後 : D地区

11月16日(土)9:00 : AB地区

本日の聖歌 本日はベトナム語ミサのため記載なしです

11月10日 年間第32主日 マルコ12章38～44節 神にすべてをささげるしるし

今日の福音もエルサレムに入られてからの出来事です。神殿の境内で教えておられたとき、一人のやもめの献金を見て語られた内容です。

短い形では省略されますが、その献金の前には律法学者に対する非難が語られています。彼らは人の前で偉そうに振る舞い、自分が人よりも立派な人間であるということを誇示し、それを誇りにしています。イエスはそのように自分と人を比べて差別化することが、神の思いから遠いことを伝えられます。そして、「やもめの家を食い物にし」ているということです。彼らは遺産相続などの裁定も行っていたので、弱い立場のやもめたちを苦しめていたのかもしれませんが。

その「やもめ」ですが、夫と死に別れた女性のほか、10月6日の福音にも出てきた「夫に離縁された女性」も含まれます。あるいはいろいろな理由で独身生活を送る女性も含まれているかもしれません。いずれにしても、当時は女性の仕事がほとんどなかった時代なので生活は厳しい状況でした。ちなみに日本語で男性の場合は「やもお」というそうですがほとんど聞いたことがないですね。それよりも「男やもめ」のほうがよく使われるようです。「男やもめにうじがわく」などと言われますが、わたしも台所でゴキブリをよく見かけるので気を付けたいものです。ゴキブリホイホイも置いているのですが…。

その女性が全財産を神殿のさい銭箱に入れます。イエスがそれを見て「全財産を入れた」というのはちょっと不自然ですが、なけなしのお金を入れたと感じられたのでしょうか。全財産といっても1クアドランスは100円足らずですから、ほんのわずかです。持っていたとしてもすぐに使い切ってしまうでしょう。それよりも神にささげたほうが役に立つと考えたのでしょうか。いずれにしても、彼女には神に対する大きな信頼があることは間違いありません。お金の問題というよりも、心の中に神の存在がどれくらい大きな割合を占めているかを表しています。それに対して、お金持ちの献金のほうが金額は大きいですが、お金や地位など、ほかに頼るものを持っているので、心の中で神の占める割合は財産全部とくらべた献金と同様に低いものでしょう。

この女性はなけなしの財産をささげてしまいました。明日からの生活はどうするのでしょうか。もともと収入がないに等しいやもめですから、親せきや周りの人から食べ物を分けてもらって生活をしていただと思われます。先日の物乞いをしていた盲人と大きく変わらない不安定な生活だったことでしょう。しかし、彼女は「神が何とかしてくださる」という思いで献金したと思います。神が周りの人を通して助けてくださるということに信頼していたのではないのでしょうか。

このあと、イエスは受難の道を歩まれます。そこには父に対してすべてをささげる深い信頼があります。この女性の姿はその先取りであるといえるでしょう。 (柳本神父)